

実務家教員育成研修プログラム（2022年度版）シラバス【全体】

No	授業名	各授業の目的（到達目標）	各授業の学修・実施内容	事前学修（eラーニング・事前課題）	課題提出物	学修時間		
						講習会	eラーニング	
1	実務家教員の教養講座	【講座の目的】実務家教員としての教養を高め、教育・研究者としての資質を養う。					3	6.5
	開講式	実務家教員育成研修プログラムの位置づけと趣旨を理解する プログラム受講に関する受講生の疑問点や不安点を解消する 講師等の経歴と人柄に触れ、信頼関係構築を促す 受講者の経歴と人柄に触れ、受講者間の交流と信頼関係構築を促す	・開講式 ・ガイダンス ・講師等自己紹介 ・受講者自己紹介	< eラーニング >（受講時間計：6.5時間） ・KOSEN-REIM ・Society5.0と実務家教員 ・実践と理論の融合	・事前課題「実務家教員としての自己紹介」【修正版】 （提出ファイル形式：パワーポイント） ・第1回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第1回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル）	2	6.5	
	実務家教員の教養講座導入	実務家教員の教養講座のeラーニングの要点を確認する	・eラーニング講座の振り返り ・ポイント解説と質疑・応答	・高等教育と成人教育 ・コンプライアンスと倫理	・第1回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル）	0.5		
	実務家教員としての専門領域	実務家教員としての専門領域を認識する	・全体ワーク：実務能力マッピング	< 事前課題 >	・第1回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	0.25		
	実務家教員のキャリアの「核」	実務家教員のキャリアの「核」となる「私のミッション」を確認・発見する	・グループワーク：私のミッション	・実務家教員としての自己紹介の作成		0.25		
2	実務経験と専門性の棚卸講座	【講座の目的】実務経験を言語化して体系化し、実務家教員として専門性を認識する。						3.5
	実務経験と専門性の棚卸講座	自らの実務経験と専門性を体系的に整理する 自らの実務経験と専門性を言語化・視覚化し、他者に伝える 他者のプレゼンを通して、自らの実務経験や専門性を俯瞰する 的確な質問・指摘を行い、他者の実務経験と専門性を引き出す	・職務経歴と職務実績のプレゼンテーション ・プレゼンテーションに対する代表質問、フィードバック	< eラーニング >（受講時間計：0.5時間） ・実務経験と専門性の棚卸講座 < 事前課題 > ・実務家教員としての自己紹介の作成	・事前課題「実務家教員としての自己紹介」【修正版】 （提出ファイル形式：パワーポイント）（再掲） ・第1回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード）（再掲） ・第1回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル）（再掲） ・第1回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）（再掲）	3.5	0.5	
3	実践講義力養成講座	【講座の目的】講義力とファシリテーション力を身につけ、講師としての魅力を高める。					6	0.5
	アイスブレイク	初対面の緊張感をほぐす。 受講者同士の対話と信頼関係構築を促す。 講師等の経歴と人柄に触れ、信頼関係構築を促す。	・ブリッジコンテスト（個人戦） ・ブリッジコンテスト（団体戦）	—		1	0.5	
	傾聴力講座	話し手に心理的安心感をもって、言葉が発せられてもらうスキル（傾聴力）を分解して体感し、実践できるようにする 傾聴力を生かした講座の導入ができるようになる 講師とは、教える仕事であり、同時に聞く仕事でもあるということを納得感をもって理解できるようになる	・「教える」ということは、半分の時間は聞くということだ」ということへの 気付きを与える。 ・個々の聞く姿勢の癖への気付きを与える。 ・聞く姿勢の違いが開示に与える変化を考える機会をつくる。			1.5		
話し方講座	< 1部 > 話す内容（バーバル情報）よりも声のベース、トーン、など講師のノンバーバル情報から多くのことが伝わるということを知り注意を向けられるようになる 芯のある声が届けられるよう、腹式呼吸を使った発声法についてを知り、必要に応じて自分でトレーニングできるようにする 言葉、文節を強調するテクニカルな方法を知り、必要に応じて自分でトレーニングできるようにする < 2部 > 同じ話をする場合でも、対象に応じて構成と内容を意識する必要があることを知り、実践できるようにする 専門が異なる聴衆の理解を助けるために、たとえを使うことが有効であることを知り、実践できるようにする 具体的な、講師が知っておくとい講義のテクニックを知り、自分にあったものを選び実践できるようにする < 3部 > 1部2部で学んだこと、それから午前の傾聴力を集約、駆使し、実際に将来的に受け持つ講義をイメージして、それぞれの専門や、なにが教えられるのかについて、観衆を惹きつけ、ケアをしなが効果的に話せるようになる	< 1部 > ・声や話し方に意識を向ける意味 ・講師としての姿勢 ・発声などの基礎トレーニング ・伝えるためのテクニカルな強調法（言葉の強調と文の強調） < 2部 > ・「構成」と「対象」を意識した伝え方 ・対象によって言葉に選び方や足し方、例えなどを変える話し方の訓練 ・理解を助ける例えの使い方 ・教える場を作るテクニック < 3部 > ・「専門領域」で1部、2部での学びを取り入れる実践演習 ・使っている言葉が講義対象者（高専生、新入社員・新任職員、異分野技術者等）に伝えるのに相応しいかという視点での振り返り ・『傾聴力講座』での学修内容を加えた『話し方講座』のまとめ	< eラーニング >（受講時間計：0.5時間） ・実践講義力養成講座 < 事前課題 > ・コミュニケーションシート（回答形式：MicrosoftForms） ・個別課題	・第2回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第2回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第2回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	3.5			
4	リカレント教育体験講座	【講座の目的】高専におけるリカレント教育を実体験してリカレント教育プログラムのレベル設定を理解するとともに、目指すべき実務家教員像を具体化する。					12	10
	e + i M e c 講習会【基礎編（橋梁点検）】	（共通）自らが目指す実務家教員像を具体的にイメージする （共通）高専におけるリカレント教育プログラムの目的やスタンス、教育的配慮について理解する （共通）e + i M e c 講習会【基礎編（橋梁点検）】のレベル設定、学修到達目標、カリキュラム内容を把握する （共通）事前学修のeラーニングで受講者共通の知識基盤を形成することが、対面講習会の学修効果の向上に繋がることを実感する （共通）受講生の知識・技術レベルに合わせた教え方を理解し、講師として指導する際のポイントや留意事項を具体的に認識する （共通）実践的なインフラメンテナンス教育における体験型学修の重要性について理解する （維持管理計画）維持管理計画立案演習の個別検討とグループワークに取り組むことで、アクティブ・ラーニングのねらいや効果を納得する （学修到達度確認試験）学修到達度確認試験の実施方法、合格基準、合格率、及び、合格者への技術資格認定制度について理解する （学修到達度確認試験）学修到達度確認試験の出題範囲、出題方法、レベル設定について理解する	・ガイダンス ・橋梁工学 ・コンクリート構造物の損傷と対策 ・調構造物の損傷と対策、共通の損傷 ・維持管理計画 ・現場実習ガイダンス ・コンクリート橋の点検 ・調橋の点検 ・詳細調査手法 ・学修到達度確認試験 ・修了式	< eラーニング >（受講時間計：10時間） ・リカレント教育体験講座 ・橋梁点検【導入編】 ・橋梁点検【基礎編】 < 事前課題 > ①自己PRシートの作成（提出ファイル形式：ワード） ②維持管理計画立案演習の個別検討（提出ファイル形式：パワーポイント）	・事後課題「学修到達度確認試験作問演習」（提出ファイル形式：パワーポイント） ・第3回ミニットペーパー（提出ファイル形式：ワード） ・第3回評価・検証シート（提出ファイル形式：エクセル） ・第3回講習会受講者アンケート（回答方法：Microsoft Forms）	11	10	
	リカレント教育体験の振り返り	実証講座教育実習に向けて、アクティブラーニングに適したテーマを設定し、教材や実施方法を考案する手がかりを得る	・気付きの共有 ・アクティブラーニングの考案			1		

実務家教員育成研修プログラム(2022年度版) シラバス【全体】

No	授業名	各授業の目的(到達目標)	各授業の学修・実施内容	事前学修(eラーニング・事前課題)	課題提出物	学修時間	
						講習会	eラーニング
5 教育能力養成講座 【講座の目的】実務家教員としての教育実践に向けて、教えるための技能(学修設計能力、学修指導能力、学修評価能力)を修得する。						12	4
	教育能力養成講座導入	eラーニング講座を振り返って学修設計・実施・評価能力のポイントを確認する eラーニング講座の疑問点や腑に落ちない点を解消する	・各eラーニング講座のねらい ・eラーニング受講者アンケート結果 ・ポイント解説と質疑・応答			1	
	ファシリテーション	受講者から意見を引き出すためのファシリテーションの素養を身につける。	・ファシリテーションとは ・授業でのファシリテーションの特徴 ・本當の学びへのファシリテーション ・ファシリテーションの基礎スキル		・事前課題「授業骨子(1コマ・90分)」【修正版】(提出ファイル形式:パワーポイント) ・事後課題「授業骨子(1コマ・45分)」(提出ファイル形式:パワーポイント) ・教材作成スケジュール(提出ファイル形式:エクセル)	1	
	授業デザイン	(授業骨子の作成) チームメンバーの授業骨子の内容を相互に把握する。 チームメンバーからのフィードバックを受け、事前課題「授業骨子(1コマ・90分)」をブラッシュアップする(講習会カリキュラムの作成) グループワークにより、チームメンバーの授業骨子の内容を活かした講習会カリキュラム骨子を作成する 全体発表及びフィードバックにより、チームとしての講習会カリキュラム骨子をブラッシュアップする	(授業骨子の作成) ・事前課題の意図の説明 ・教育実習グループ分けの発表と意図の説明 ・グループワーク:メンバー作成授業骨子の共有 ・講習会カリキュラム検討に向けて授業骨子を修正(講習会カリキュラムの作成) ・講習会カリキュラムの骨子作成と様式の説明 ・グループワーク:講習会カリキュラム骨子作成 ・成果共有:グループワーク成果発表と意見交換 ・グループワーク:ブラッシュアップ・とりまとめ	<eラーニング>(受講時間計:4時間) ・授業設計とシラバス ・教授法とアクティブラーニング ・教材研究と教材作成 ・成績評価	・グループ成果品「講習会カリキュラム骨子」(提出ファイル形式:パワーポイント) ・グループ成果品「参加型・体験型授業骨子」(提出ファイル形式:パワーポイント) ・グループ成果品「参加型・体験型授業ルーブリック評価表」(提出ファイル形式:パワーポイント)	4	4
	アクティブラーニング	グループワークにより、アクティブラーニングの手法を用いた参加型・体験型授業を設計し、参加型・体験型授業の骨子を作成する ペーパーセミナー(アクティブラーニングの技法)による協同学習により、各チームの参加型・体験型授業の骨子をブラッシュアップする	・参加型・体験型授業骨子作成と様式の説明 ・グループワーク:参加型・体験型授業骨子案作成 ・成果共有:ペーパーセミナー(協同学習) ・成果共有の評価結果等を所属チームへフィードバック ・グループワーク:参加型・体験型授業骨子をブラッシュアップ	<事前課題> ・授業骨子の作成(提出ファイル形式:パワーポイント)	・グループ成果品「グループ作業スケジュール」(提出ファイル形式:エクセル)	3.5	
	教材研究と教材作成	授業の目標達成に向け、自らの実務経験や実践知を教材化し、授業を構成していくイメージを描む テキスト、スライド資料(eラーニング用、授業用)、配布資料の作成上の留意点を理解し、実際に作成する教材のイメージを描む	・教材作成上の留意点 ・教育実習に向けた教材作成ルール説明 ・グループワーク:教材作成スケジュールの作成		・第4回講習会受講者アンケート(回答方法:Microsoft Forms)	1	
	成績評価	いろいろな学修到達度確認試験問題を閲覧し、選択式問題作成上のポイントを理解する 参加型・体験型授業の評価シート案の作成演習により、ルーブリックの具体的なつくり方を理解する	・実証講座教育実習で取組む評価 ・イける選択式問題について考える ・ルーブリック評価について考える ・参加型・体験型学習のルーブリック評価表作成演習			1.5	
6 実証講座教育実習 【講座の目的】実証講座の設計・指導・評価を行い、実務家教員としての実践を経験する。						18.5	8.5
	中間発表 ※チーム毎に実施	実証講座教育実習に向けた進捗状況と作業スケジュールを確認する。 講習会カリキュラム内容、アクティブラーニングの設計方法、授業骨子、教材作成について、講師からアドバイスをを受け、質疑応答を行う。	・中間発表 ①講習会カリキュラム(全体)骨子 ②参加型・体験型授業骨子 ③eラーニング(スライド・ノート) ④授業骨子(各講義) ・アドバイス・質疑応答	<事前課題> ・中間発表資料の提出	・講習会カリキュラム(時点版) ・参加型・体験型授業骨子(時点版) ・eラーニング(スライド・ノート)(時点版) ・授業骨子(時点版)	1.5	
	前日準備	教材、配布資料、講義スライド、会場レイアウト、会場設備、使用備品等を確認する。 講習会の学修指導内容・方法等について、各チームで最終確認する。 講習会の運営に際しての役割分担について、事務局と最終調整する。	・教材、配布資料、講義スライド、会場レイアウト、会場設備、使用備品等の確認 ・チームミーティング ・事務局とのミーティング	<eラーニング>(受講時間計:8.5時間) ・実証講座教育実習(目的と進め方) ・Aチームeラーニング講座 ・Bチームeラーニング講座 ・Cチームeラーニング講座	・教育実習教材 ・シラバス ・eラーニング(スライド・ノート・チェックテスト) ・講習会スライド ・講習会テキスト ・学修到達度確認テスト	2	
	教育実習	高専生を対象とした教育実習(eラーニング及び各種教材作成含む)に取り組み、実務家教員としての教育能力(教育設計・指導・評価能力)を向上する。 高専生対象に、実務家教員育成研修プログラムで学んだ知識・技能と自らの実務経験・実務能力を活かした講義・指導を行う。 自ら設計した講義、及び、所属チームで設計した参加型・体験型授業(アクティブ・ラーニング)の学修効果を検証する。 他者の講義、及び、他チームの講習会を聴講し、相互に学び合うことで、教える技術(教育能力)の向上に繋げる。	・教育実習 【Aチーム】 【Bチーム】 【Cチーム】	<事前課題> ・教育実習教材の作成・確認(指定のファイル形式) ・シラバス ・eラーニング(スライド・ノート・チェックテスト) ・講習会スライド ・講習会テキスト ・学修到達度確認テスト ・ミニットペーパー ・アンケート ・使用備品・準備物リスト ・ルーブリック評価表	・教育実習評価シート(提出ファイル形式:エクセル) ・教育実習講習会アンケート(回答方法:Microsoft Forms)	12	8.5
	学修到達度チェックテスト	受講者(高専生)の学習到達度を確認する。 学修到達度確認テストの有効性と難易度を確認する。	・学修到達度チェックテスト 【Aチーム】 【Bチーム】 【Cチーム】	・教育実習教材の作成・確認(指定のファイル形式) ・シラバス ・eラーニング(スライド・ノート・チェックテスト) ・講習会スライド ・講習会テキスト ・学修到達度確認テスト ・ミニットペーパー ・アンケート ・使用備品・準備物リスト ・ルーブリック評価表		1	
	教育実習の振り返り	教育実習を振り返り、講師から講評を行う。 チーム毎に振り返りを行い、各講習会の学修効果や課題を検証する。 教育実習で得た学びを、受講者間で共有する。	・講師からの講評 ・グループワーク:振り返り・相互フィードバック ・成果共有	・ルーブリック評価表		2	
7 プログラム修了評価 【講座の目的】プログラム全体を振り返り、実務家教員としての役割とキャリアパスを考える。						5	0
	プログラム全体の振り返り	実務家教員育成研修プログラムで学んできたことを総括する。 実務家教員として成長するためのポイントを確認する。 本プログラム(第1回~第5回)の評価結果を確認し、他者(他の実務家教員、検定者)の視点から本プログラムの価値を認識する。	・プログラム全体の振り返り ・プログラムの評価		・事前課題「6W2Hで考える実務家教員としての行動計画」【更新版】(提出ファイル形式:パワーポイント) ・第6回ミニットペーパー(提出ファイル形式:ワード) ・第6回評価・検証シート(提出ファイル形式:エクセル)	2	
	実務家教員としてのキャリアパス①	事前課題(6W2Hで考える実務家教員としての行動計画の作成)で整理した自らの考えを、フリーディスカッションを通して深める。 インフラメンテンス分野の実務家教員として、どんな場面でどんな活躍・活動ができる・したい・すべきか、どんな価値を提供できる・したい・すべきかを明確化する。	・グループディスカッション:実務家教員のミッション~実務家教員はどんな価値を提供できるのか~ ・全体共有 ・全体ディスカッション	<事前課題> ・6W2Hで考える実務家教員としての行動計画の作成(提出ファイル形式:パワーポイント)		1.5	0
	実務家教員としてのキャリアパス②	高専のリカレント教育の位置づけや理念を理解する。 高専のリカレント教育において、実務家教員がどのように関わり、どのような活躍ができるか具体的にイメージする。	・高専のリカレント教育講座(e+I Me c講習会)の説明 ・質疑応答		・第6回講習会受講者アンケート(回答方法:Microsoft Forms)	0.5	
	まとめ	講師・受講者間で、本プログラムを受講した感想を共有する。	・講義:受講者との関係 ・フリートーク			1	
各学修時間の合計(時間)						60	30
全学修時間(講習会,eラーニング)(時間)						90	

【実務家教員育成研修プログラム修了要件】

次の①~④の修了要件を全て満たす者を修了者とし、国立高等専門学校機構による『専任教士(建設部門)』に認定する。

- ① eラーニングを全て修了していること
- ② 全ての講習会(全6回)へ出席していること
- ③ 課題提出物を全て提出していること
- ④ 実証講座教育実習の評価が合格基準に達していること